

耕作放棄地再生利用緊急対策交付金を活用した実証ほ場の設置・運営について

壱岐地域担い手育成総合支援協議会

壱岐地域担い手育成総合支援協議会では、平成21年度から24年度にかけて耕作放棄地再生利用緊急対策交付金を活用した実証ほ場の設置・運営を実施しましたので、ご紹介いたします。

1 目的

壱岐地域では、耕作放棄地のうち要活用農地が100haありその解消に取り組んでいる。壱岐地域は、農業算出額61億円のうち52%を肉用牛で占める畜産を主体とした地域であるため、耕作放棄地については放牧や飼料作物を中心として解消に取り組んでいる。

壱岐地域の野菜は、アスパラガス、いちご、メロン、ブロッコリーを柱とした産地であり、他の露地野菜は産地化に至っていない。

今後、耕作放棄地解消のための野菜の導入を図るにあたり、展示ほ場を設置し耕作放棄地を解消した農地における新規品目等の生産性等を検討する。

2 実証ほ場設置場所

壱岐市郷ノ浦町牛方触地内（地目：田 4,448㎡）

3 作業委託農家

有限会社 アグリランドいき

4 再生作業実施状況

作業前



作業状況



作業後



5 年度別実証結果

実施年度	事業費	実施内容
平成21年度	398,876円	耕作放棄地の再生作業（伐採・深耕・耕耘等）、 土壌改良（堆肥散布）
平成22年度	809,718円	大豆（新品種、熟期が違う品種）を作付け、加工（豆腐） までの経営の実証を図った。また、健康機能を有した作物 の栽培を行い経営までの実証を行った。しかし、昨年まで 耕作放棄地であったこと等により、想定より地力が低く収 量が上がらなかった。併せて、溜池の真下ということで湧 水等の対策を行ったが、完全に乾田化ができなかった。
平成23年度	693,677円	大豆（新品種等）を作付け、生産性の検討、加工（豆腐） 適正の、販売性の実証を行った。また、昨年度までの検討 事項である乾田化を図ることを目的に排水対策を行った が、完全に出来なかったため、収量が低くなった。
平成24年度	592,885円	里芋（赤芽大吉）及び生姜（早生生姜）を作付け、島外業 者との契約栽培の実証を行った。しかしながら夏季の高温 と貯水池の枯渇により水不足となり適正な水管理ができな かったため、肥大不足等、生育不足により大幅な減収とな った。

6 総括

耕作放棄地を解消した農地における作物の生産性等を検討した結果、大豆を水田で栽培する場合は排水対策の徹底が必要である。また、里芋及び生姜については梅雨明け以降の高温干ばつにより生育不足となり、用水確保の重要性も認識できた。

当ほ場の様な基盤整備水田で畑作物を栽培する場合、排水対策をきちんと行い、早期に乾田化させることが重要であり、本暗渠の設置、増設や既存暗渠の疎水材の追加等必要があれば、耕作放棄地解消の一環として施工を検討する。